

新年、明けましておめでとございます。
本年もどうぞよろしく願いたします。



寒い寒い三が日でしたが、みなさんどんな新年を迎えられたのでしょうか。穏やかな年明けであることをお祈りいたします。

1年の初めの1月に因んで、「いち」という谷川俊太郎さんの詩です。みんな世界中でひとりだけの大切な存在です。その一人ひとりが手を携えることで、大きな力になるのです。1があるから100も10000もあるのです。だから、ちいさいようで、おおきいのでしょう。1を大切にすることで、それに続くすべてが大切なものになります。

今年のスタートの1月は、みなさんにとってどんな月になるのでしょうか。2月3月4月...をその上に積み上げるためのベースの1月。そう考えると、とても楽しみで大切な月に思いませんか。

一日一日を大切に、悔いなく過ごしたいものです。

いち 谷川俊太郎

いちってね
つまりほくがね いちなのさ
ぼくは せかいで ひとりきり

いちってね
つまりママがね いちなのさ
ママは せかいで ひとりきり

いちってね
つまりきみもね いちなのさ
ぼくと きみとで 2になるよ

いちってね
だけどちきゅうは ひとつなの
ぼくと きみとは てをつなぐ

いちってね
だからはじめの かすなのさ
ちいさいよつで おおきいな

笑顔の力



笑顔には、大きな力があります。昔から「笑顔は長寿の源」とも言われています。笑顔は、自分だけではなく周りの人にも反映します。逆の怒りも同じです。みんなが、気持ちよく過ごすために、「笑顔」は大きな力を発揮することができます。「おはようございます」というあいさつひとつをとっても、「笑顔」と「仏頂面」では、相手の受け取る「気持ち」が違ってきます。

笑う門には福来る

子どもたちには、「先に」「笑顔で」「大きな声で」「アイコンタクトで」、挨拶しようとして伝えています。そして、ちゃんと実践できている子どもたちが、たくさんいます。今年も「おはよう」「さようなら」「ありがとう」を笑顔で、そして「ごめんなさい」を心をこめて言える子どもたちに育てていきましょう。

「正解と納得解」

「正解」という言葉はご存知でしょうか、「納得解」（正しい日本語かどうかは・・・？）という言葉もご存じですか？

テストで求められるのはご存知のとおり「正解」です。「正解」は知識があれば誰にでも導き出せます。入試では、この「正解」をどれだけ沢山出せるかが計られ、「正解」を出すために入試勉強のトレーニングもします。この知識は当然必要なものですし、その過程で培われる思考力も大切な力です。

では、「納得解」とは何でしょうか。この上記の知識と思考力を駆使して、相手を納得させられる解答のことです。それは「正解」とは限りません。実際世の中には「正解」のない問題がたくさんあります。でも、相手に「なるほど」と言わせることのできる力こそ本当の力、本当の学力ではないでしょうか。

「正解」を出すための力、特に義務教育課程での知識や思考力、これは欠かせないものです。子どもたちには、その知識や思考力だけではなく、それを生かすことのできる力をつけたいと考えています。教科の授業だけではなく、多くの行事の中でも「納得解」を導き出す力をつけられます。

今年も、子どもたちに本当の力をつけるために、教職員一丸となってがんばります。